

診療所だより 9月号



歯周病は一般に歯肉炎と歯周炎に分けられます。一般的には歯肉炎から進行すると考えられるため、プラークを除去して歯肉炎を起こさないことが予防の基本です。口の中の細菌群は、細菌同士が強固にくっつきへばりついて生き延びる特殊なタイプなので、機械的な口腔清掃がもっとも効果的です。歯はもともとお茶碗のようにツルツルしていますが、プラーク（細菌の塊）が付着しているとヌルヌルしてきます。歯肉炎になっていない人でも、3~4ヶ月毎のメンテナンスをお勧めします。クリーニング後3ヶ月弱で虫歯菌や歯周病菌の繁殖力が回復します。歯周炎にかかっている人、もしくはプラークコントロールがうまくいっていない人は当然もっと短期間でクリーニングが必要となってきます。 歯科医 山本圭子

医 科（電話75-6100）

歯 科（電話75-6105）

日	曜日	午前受付8:30~11:30 午後受付2:00~ 4:00		午前受付9:00~11:30 午後受付2:00~ 5:30	
		午前	午後	午前	午後
1	土	休 診（救急・急患対応）		休 診	
2	日	休 診（救急・急患対応）		休 診	
3	月	伊黒	伊黒	診療	診療
4	火	伊黒	伊黒	診療	診療
5	水	伊黒	小松	診療	診療
6	木	小松	小松	診療	診療
7	金	小松	小松	診療	診療
8	土	休 診（救急・急患対応）		診療	休 診
9	日	休 診（救急・急患対応）		休 診	
10	月	山本	山本	診療	診療
11	火	山本	山本	診療	診療
12	水	山本	小松	診療	診療
13	木	小松	小松	診療	診療
14	金	小松	小松	診療	診療
15	土	休 診（救急・急患対応）		診療	休 診
16	日	休 診（救急・急患対応）		休 診	
17	月	休 診（救急・急患対応）		休 診	
18	火	山本	山本	診療	診療
19	水	山本	伊黒	診療	診療
20	木	伊黒	伊黒	診療	診療
21	金	伊黒	伊黒	診療	診療
22	土	休 診（救急・急患対応）		診療	診療
23	日	休 診（救急・急患対応）		休 診	
24	月	休 診（救急・急患対応）		休 診	
25	火	山本	山本	診療	診療
26	水	山本	小松	診療	診療
27	木	小松	小松	診療	診療
28	金	小松	小松	診療	診療
29	土	休 診（救急・急患対応）		診療	診療
30	日	休 診（救急・急患対応）		休 診	

※医師の都合により変更になる場合があります。

※医科については土、日、祝日、夜間は急病・救急のみ対応します。（電話75-6100）

患者さんは神様？

島牧診療所 内科 小松正伸

お客様は神様です、と言った有名な国民的歌手がいました。お金を払い、楽しみを求めて、舞台を聞きに来るお客様を、神様と表現したようです。そして、「神様の前に祈る時のように、澄み切った心で歌を唄う」、自分への心構えを述べたのです。でも近頃では、お客様は神様だから徹底したサービス精神で接するのが当たり前といった、間違った使い方がされています。

では、私たち医療をする側にとって、患者さんは神様でしょうか？紙に書かれた福沢諭吉が大好きな一部のお医者さん、経営がうまくゆかず赤字に苦しむ病院にとっては、患者様はお金を背負って来てくれる大好きな神様に見えるかもしれません。カモがネギ、の世界。説明もなく不要な検査をして、不要な薬を出し、自分の病院から決して患者さんを手放そうとしない。先号にも書きましたが、そんな「追はぎ」みたいな病院や診療所があるのは、情けない話です。まあ、島牧の熊さんと同じに、生きるための事情があるのでしょうか。

私は、患者さんは神様とは思っていません。もし患者さんが神様なら、神様は病気にならないんだから、病院に来るわけがない。冗談は抜きにして、患者さんはお客様ではないと私は考えています。

患者さんは舞台上で歌を聞くような楽しみを求めて、診療所に来ているわけではありません。なんらかの病気を抱えていて、もっと良くなりたく、せめて悪くならないでほしいと願って、仕方なく受診する。どこもなんともなければ、わざわざ時間とお金を使って、病院なんて行きたくないのが本心でしょう。私も患者の身で病院へ行くことがありますので、しょうがないから行くという気持ち、まったく同感です。

医者や看護師を含めた医療者と患者は、どんな関係でしょうか？患者さんは神様のように、手を合わせてありがたがられる大切なお客様？逆にお医者さんのほうが、神様より偉い？それは、間違い。本当は医師と患者はまったく対等の立場で、上下関係はありません。

私は、患者さんを「戦友」のように思っています。患者さんは敵である病気と戦う。病気を治す力は、患者さんがもともと持っている体力。医療側は、それをお手伝いするだけ。病気という敵の、後方支援部隊です。薬などの治療は、戦いに使える武器。医療者と患者がよく話し合い、共同作戦を取る。本物の軍隊と違い、患者さんは医者の命令で動かされるわけではありません。

でも、やっぱり人間は病気には勝てない。だんだんに薬が効かなくなる、年齢が高くなれば自分の体を治す力だって弱くなる。こんな時、いっしょに戦ってきた医療者は、患者さんの心に寄り添い、見守ることしかできません。すっかり力尽きた患者さんに、もう一度戦場に出て戦え、とは言えない。戦友である患者さんに、勇気ある最後を見せてくれてありがとうと頭を下げるのです。

あの三波春夫さんに、もっと長生きして歌っていてほしかったなあ。今ならどんな東京五輪音頭を歌って、日本人を元気づけてくれたでしょうね？

